

第 53 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	宮本ゼミ	チーム名	DJM
タイトル	デポジットでプラスチックごみを減らす		
テーマ群	c) 公共経済		
メンバー	三浦大季 石塚志 岸原啓豪 橋本祐輝 釣谷吏玖 塩田良佑 松井和輝 内藤源太		
研究計画内容	<p>〔研究の背景〕</p> <p>プラスチック使用量の増大は、海洋汚染や地球温暖化を進めるなど、重要な環境問題である。また、プラスチック廃棄物問題は世界でも深刻な課題である。特に、日本のプラスチックごみの廃棄量は世界第2位となっており、日本においても重要な課題である。</p> <p>「脱プラスチック」を目指すため、インターネットやチラシなどの媒体を通じて、プラスチック使用を減少させるように意識を変革させるための啓発活動が行われている。</p> <p>しかし、笹尾(2023)によれば、環境意識の高い人には効果があるが、環境意識の低い人は実際に行動に移す確率は低いと指摘されている。そこで、我々は環境意識の低い人の行動変容を促すために有効な手段として、デポジット制度に着目して研究をおこなう。デポジット制度とは、購入時に製品本来の価格に余分に一定額の預かり金(デポジット)として上乗せして販売し、製品を使用後に使用済み製品を所定の場所に返却すれば、購入時に徴収した預かり金(デポジット)の全部もしくは一部を返却者に払い戻す制度である。デポジット制度を導入すると資源の効率的利用や廃棄物の削減、環境への負担軽減などの効果が知られている。</p> <p>〔研究内容〕</p> <p>大学生を対象としたアンケート調査を用いて、ペットボトルにデポジット制度を導入した時にどれくらいの金額で消費者の意識が変化するのか、デポジット制度を導入した時に得られる効果などを分析する。デポジット制度を使用して環境へ配慮していくことや、デポジット制度の効果や大学生の関心などの分析も検討する。これらの結果を踏まえて、デポジット制度の課題を分析し、メリットやデメリットを考察する。また、大学生がどれくらいデポジット制度へ関心を持っているのか分析して、効果的にデポジット制度を広める方法も検討する。</p> <p>〔期待される効果〕</p> <p>この研究結果は、デポジット制度の活用によってペットボトルなどのプラスチック製品のポイ捨て減少に貢献すると考えられる。さらに、海洋汚染や地球温暖化などの環境問題を身近な問題として考えるように人々の意識を変化させる一助となることが期待される。</p> <p>〔参考文献〕</p> <p>笹尾俊明 『循環経済入門： 廃棄物から考える新しい経済』 (株式会社岩波書店、2023年)</p>		